

# 卒業生・在校生の声 ～寮生活は、人生のかけがえのない財産になる～

**1** **男子校**  
函館ラ・サール中学校・高等学校



## 大部屋寮で学んだこと

本城 慎之介さん (1991年度卒業・楽天創業者の一人で元副社長)

我が母校の寮は大部屋。初めて門をくぐったのは入学式前日。独特の臭いがする男子ばかりの100人部屋。親と離れる寂しさよりも、こんなところで暮らせるか!という怒りの方が勝っていた。「友達は全国にいたほうが絶対いい。一生の宝になる。」と言う父が勝手に入学手続きをし、地元高校への入学を辞退してしまったのだ…。あの大部屋を事前に見学して「ここで生活したい!」と思う10代男子は、この世の中にほとんどいないだろう。しかし、「100人部屋の1年が最高だった!」と言う函館ラ・サール卒業のオジサンたちは全国各地にたくさんいる。大部屋では「世の中は多様なんだ、色々な人がいるんだ」ということを実感させられたと同時に、あらゆるモノを皆で共有していた。モノだけではない。時間、空間、仲間、全てがそうだ。自分だけよければいいというのは一切通用しない。全ては自分一人で所有しているのではなく、皆で共有しているものを一時的に使わせてもらっているのだ。そんな謙虚な気持ちで育んでくれたのも、大部屋寮での生活があったからだ。個が大切にされる今、「大部屋の寮」は時代遅れなのかもしれない。だが、時代遅れだからこそ、どんな時代でも大切なことを学べるのだ。

**2** **男子校**  
静岡聖光学院中学校・高等学校



## 寮生活の6年間で築く友情と人間関係

安倍 弘策さん (高校1年生指導係)

私が寮に入って成長できたと感じることは以下の3点です。・自立できる・親の大切さがかかる・仲良い友達がたくさんできることです。まず1番大きいのは自立できることです。寮に入ると洗濯や掃除など自分でやらないといけないことが多いです。入寮前は保護者の方も自分の子供が本当に洗濯ができるのかと不安に思っていると思います。いざ寮に入ると時間を考え、しっかりと自分の事を自分で、できるようになります。そして、これら全てを自分でやってみると、とても大変で今まで親が全部やってくれていたことを思い出します。親がやってくれていたことを実感した人は、親に対して「ありがとう!」と思うようになるでしょう。最後に学校生活において欠かせない、人間関係についてです。6年間で共にするので、人間関係は必然的に大事になります。寮では24時間、共に同じ屋根の下で生活するので仲の良い友人が沢山できます。しかし、仲良くなるにつれて喧嘩も多くなります。何度もぶつかりながら、友達の大切さに気づき、寮や学校を含め様々な所で助け合って生活することができるようになります。

**3** **女子校**  
盛岡白百合学園中学高等学校



**4** **女子校**  
不二聖心女子学院中学校・高等学校



## 寄宿舎生活での学び

西川 伊万里さん (高校3年)

不二聖心女子学院の寄宿舎「セントマドレーヌ」には、19都道府県から生徒が集まっています。性格も年齢も育ってきた文化的背景も異なるメンバーから成り立っている寄宿舎は一つの家庭的な社会とすることができます。寄宿舎生活では、同学年による横のつながりを大切にすると同時に、上級生、下級生との縦のつながりを大切にしています。掃除、食事、行事、係の仕事を通して、上下級生が関わり共同生活を作っていきます。そのなかでも係の仕事は、6年間を通じて最も自分を成長させてくれたと感じています。私は、キャプテンという、寄宿舎で行われる行事の企画運営を行う係に高校3年間所属しています。この係の活動を通じ、自分で考え、判断し、実行することのできる自立心・責任感を身に付けることができたと感じています。

**5** **女子校**  
函嶺白百合学園中学高等学校



**6** **共学校**  
自由学園中等部・高等部



**7** **共学校**  
立命館慶祥中学校・高等学校



## 慶祥専用寮のお勧め3つ

正津 葵さん (2024年卒業 早稲田大学進学)

- ①寮では、平日21時から22時まで学習時間が義務付けられていて、学習習慣が身につきます。慶祥卒業生の学習指導員さんがいてくれて気軽に質問ができ、定期試験前には対策講座も設けられるので、苦手な教科や分野を克服することができました。
- ②寮生活では自分のことを自分でやるようになるので、親のありがたみを感じることができました。限られた時間の中で時間を無駄にすることなく工夫して使えるようになりました。
- ③寮の食事はバランスが良く、ごはんとお味噌汁のお代わりが可能で、野球部所属の自分はすごく助かりました!

**8** **共学校**  
松風塾高等学校



**9** **共学校**  
秀光中学校・仙台育英学園高等学校 (秀光コース)



**10** **共学校**  
盛岡中央高等学校・附属中学校



**11** **共学校**  
秀明学園秀明中学校・高等学校



**12** **共学校**  
暁星国際中学校・高等学校



**13** **共学校**  
公文国際学園中等部・高等部



**14** **共学校**  
関東学院六浦中学校・高等学校



**15** **共学校**  
佐久長聖中学・高等学校



**16** **共学校**  
片山学園中学校・高等学校



**17** **共学校**  
国際高等専門学校



**18** **共学校**  
麗澤瑞浪中学・高等学校



## 「責任の重みを実感した、寮長として向き合う寮生活」

三瓶 友莉さん (高校3年生 寮長)

私が寮生活を通して実感していることは、学年が上がるにつれて、自分の責任の範囲が増えていくことです。高校1年生の時は寮での自分の役割を全うし、2年生の時は新入生を教え導き、3年生になると寮全体を見守る役割を果たします。また、自分だけで生活しているのではなく、同級生の仲間と協力していくことや、上級生や下級生とも話し合いながら、寮をつくっていく必要があります。今は寮長という立場になり、これまで以上に自分の言動に責任をもつ大切さに気づきました。寮生活の中だからこそ気づけたこの視点。今までの自分だったらこの大切さに気づけていなかったように思います。これまでの文化を守りながら、自分たちらしさも大切に、寮生がもっと過ごしやすくなるような寮にしていきたいと考えています。

**19** **共学校**  
高野山高等学校



## 寮生活は社会生活のための予習!!

越智 春名さん (特別進学コース二年)

私は高野山高校の普通科特別進学コースの所属する越智春名です。まず、私が高野山高校に進学した理由とはとにかく寮生活を送ることによって、高校生のうちでできるだけ自立した生活を送りたかったからです。実際に高野山での寮生活も2年目に入りますが、自分の身の回りのことは自分でできるようになりました。また、家族以外の人たちと日常生活を送ることによって他人を許容できるようになりました。高野山の街中で外国人に質問された時はざりげなく接することができます。アメリカに留学した時もホストファミリーの皆さんとすぐに打ち解ける事ができました。高野山高校での寮生活は視野を広げます。実社会へ出た時の準備を3年間ゆっくりに学べます。

**20** **共学校**  
近畿大学附属新宮高等学校・中学校



**21** **共学校**  
岡山中学校・高等学校



**22** **共学校**  
吉備高原学園高等学校



**23** **共学校**  
如水館中学校・高等学校



**24** **共学校**  
キリスト教愛真高等学校



**25** **共学校**  
岩田中学校・高等学校



**26** **共学校**  
沖縄尚学高等学校・附属中学校



## 「対話」を通して多様性を学んだ寮生活

伊敷 美旅さん (2020年度卒業・ICU国際基督教大学4年)

私は中高の6年間で尚学グローバル寮で過ごし、「対話」の重要性を学びました。普段関わることがない先生方と話したり、学年を超えた交流をする中で、互いを尊重し合うことは想像以上に難しかったです。しかし同時に、常に新たな刺激で満ち、視野を広げることもできました。また、寮に住む友人とは特に近い距離で楽しく勉強でき、学業に関する不安な気持ちもほぐれていきました。これらの経験を糧に大学での学びを深めていきたいと思っています。

